

英語の描写述語の周辺的事例にみられる 意味的特徴について*

金 澤 俊 吾

1. はじめに

英語における描写述語 (depictive predicate) は、動作が行われる際の、主語名詞句もしくは目的語名詞句によって表される指示対象の一時的状態を表す。(1) は目的語指向の具体例である。

(1) Ben cut the bread hot. (Rapoport 1993: 165)

形容詞 hot は、目的語名詞句 the bread と叙述関係を構築し、「ベンがパンを熱い状態で切った」と解釈される。

形容詞が while に後続し、描写述語と同様、動作が行われる際の指示対象の状態を表す場合がある。(2) がその一例である。

* 本論は、日本英語英文学会第31回年次大会(2022年3月5日、オンライン開催)において口頭発表した「英語の描写述語の周辺的事例に見られる意味的特徴と形成過程について」の内容に加筆、修正を施したものである。発表に際し、司会の労を執って頂き、貴重なご質問、ご意見を賜った川崎修一先生と、ご助言を賜った野村忠央先生に深く感謝申し上げます。あわせて、2名の匿名の査読者からも貴重なご質問、ご助言を賜ったことに厚くお礼申し上げます。当然のことながら、本論に関する不備および誤りの責任は、すべて筆者にある。なお、本研究の成果の一部は、JSPS 科研費 21K00572 の助成を受けてなされている。

- (2) a. Sprinkle garlic chips over the broth if desired and cilantro over the noodles. Serve them together while hot, dipping the noodles into the broth. (COCA, 2019, NEWS)
- b. ... finish by sprinkling the fresh thyme leaves over top, and serve while hot. (COCA, 2012, BLOG)

いずれの例も、while hotは、動詞serveと共起することで、食べ物の一時的状態の持続性を表し、「食べ物を熱いうちに出す」と解釈される。while + 形容詞から成る句は、2種類の具現の仕方があり、動詞句内に叙述対象が明示される場合と、されない場合がある。(2a)は、叙述対象が明示される事例の具体例であり、代名詞themがwhile hotと叙述関係を構築することで、themの指示物(ここではスープと麺)が熱いうちに出される状況を表している。また、(2b)は、叙述対象が動詞句内に明示されない事例であり、先行文脈で明示されている名詞句the casserole(グリーン・ビーン・キャセロール、鍋料理の一種)と、while hotが叙述関係を構築することで、鍋料理が熱い状態に出される状況を表している。

本論では、(2)に挙げるwhile Aを含む事例が、(1)に挙げる「通常の描写述語」と意味的振る舞いが類似している点に着目し、目的語指向の描写述語の周辺の事例として分析を進める。とりわけ、「通常の描写述語」との比較により、while Aを含む2種類の事例であるV NP while A, V while Aの意味的特徴と形成過程を考察する。以下、2節では、描写述語の叙述対象の名詞句、形容詞に関する先行研究を概観し、描写述語と、その述語と共起する動詞との時間関係を考慮する必要性を示す。3節では、「通常の描写述語」と、「(2a)のようなV NP while A」、「(2b)のようなV while A」の各事例にみられる意味的特徴を観察し、生起する動詞と形容詞との叙述関係を検証する。4節では、while Aを含む描写述語の形成過程を考察し、各事例にみられる動詞の語彙的意味と、形容詞の語彙的意味の自律性が、これらの事例の形成に重要な役割を果たしていることを示す。5節では本論のまとめと今後の課題を述べる。

2. 描写述語に課せられる意味的制約

2.1. 名詞句に課せられる意味的制約

描写述語の分析は、とりわけ1990年代から2000年代にかけて、結果述語の分析との比較により盛んに行われた。たとえば、Rapoport (1993) は、描写述語の叙述関係に関して、Williams (1980) の分析に従い、動詞が付与する意味役割 (thematic role) に基づく説明を試み、描写述語と叙述関係を結ぶ名詞句は、主題 (Theme) であると主張する。具体例として (3) をみてみよう。

- (3) a. John sold the boy the car used.
b. *John sold the boy the car young. (Rapoport 1993: 177)

(3a) における形容詞 used は、動詞 sell より主題の意味役割が付与される名詞句 the car と叙述関係を構築し、「ジョンが車を中古で売った」と解釈される。しかし、(3b) の名詞句 the boy は、着点 (Goal) の意味役割が付与されるので、形容詞 young は描写述語を形成できない。

また、Rapoport (1993) によると、叙述対象の名詞句が、主題や被動作主 (Patient) の意味役割が付与されない指示対象であっても、(4a) の the book used や、(4b) の Nadav happy のように、描写述語と叙述関係を構築できる場合がある。

- (4) a. Rebecca sold the book used.
b. Ethan photographed Nadav happy. (Rapoport 1993: 178)

これを踏まえ、Rapoport (1993) は、描写述語において叙述対象の名詞句は、(5) に示す動詞の概念構造において、その動詞の変項である y の位置を占めるという一般化を提案している。

- (5) [x CAUSE [y...]] (Rapoport 1993: 178)

この提案により、Rapoport (1993) は、描写述語と共起できる動詞は、状態変化を表すとしている¹。

しかしながら、Rapoport (1999) が指摘するように、Rapoport (1993) の分析では、描写述語の叙述対象に対して、この制約が課せられる理由が明示されておらず、描写述語の叙述関係を十分に説明できているとは言い難い²。

2.2. 描写述語の形容詞に課せられる意味的制約

Jackendoff (1990) や Rapoport (1993) らによって、指示対象の一時的状態を表す場面レベル述語 (stage-level predicate) と、指示対象の属性を表す個体レベル述語 (individual-level predicate) の二分法に基づき、描写述語は場面レベル述語に限定されると説明されてきた。

(6) Bill ate the meat raw/*tasty. (Jackendoff 1990: 203)

この区別により、(6) の形容詞 raw は、場面レベル述語であるので、描写述語と容認されるが、形容詞 tasty は、個体レベル述語であるので、描写述語と容認されないと説明される。

しかし、この二分法に基づく説明では、描写述語の意味的特徴を十分に説明できないことが、(7) から明らかとなる。

(7) She cooked the fish dry. (Rapoport 1993: 166)

形容詞 dry は、魚の一時的状態を表す、場面レベル述語として解釈される。しかしながら、Rapoport (1993) によると、(7) の文は多義的であり、描写述語と結果述語いずれにも解釈できる。そのため、これら2つの述語は、解釈が異なるにもかかわらず、その違いを十分に説明できない。

次に、動詞と描写述語との関係を考慮に入れた、坪本 (1990) と加賀 (1998) による、形容詞の区別に基づく描写述語の分析を紹介する。坪本 (1990) は、描写述語に生起する形容詞を「過程的状态」と「安定状態」に分類する。「過程的状态」に分類される形容詞は、放っておくと状態が変化する性質を有しているのに対し、「安定状態」に分類される形容詞は、外的な影響を与えない限り、状態が継続する性質を有する。(8) は各分類の代表例を示している³。

- (8) i. 過程的狀態 (非安定的形容詞): hot, fresh, ...
- ii. 安定狀態 (安定的形容詞): raw, black, ...

具体例として (9) をみてみよう。

- (9) a. Bill drank the coffee hot. (坪本 1990: 293)
- b. John ate the carrots raw.

形容詞 hot と raw は、いずれも目的語指向の描写述語と解釈される。(9a) は「ビルが、コーヒーを熱い状態で飲んだ」と解釈される。また、(9b) は「ジョンが、ニンジンを生で食べた」と解釈される。

坪本 (1990) は、形容詞 hot と raw にみられる狀態の持続性の違いを、(10) のように、持続期間を示す疑問文 how long を用いた診断法で示している (cf. Maruta (1995), Ferris (1993))。

- (10) a. How long is coffee hot?
- b. ??How long is meat raw? (坪本 1990: 293)

加賀 (1998) は、坪本 (1990) の分析を援用し、目的語指向の描写述語において、安定的形容詞が位置変化の主体を叙述する際に容認されると説明している⁴。たとえば、eat the carrots/meat raw において、動詞 eat は、食べ物 の口への移動を表すので、安定的形容詞 raw は、名詞 carrot, meat と叙述関係 を構築し、ニンジン、肉を生 の状態で食べる状況を表すことができる。

加賀 (1998) もまた、非安定的形容詞に分類される形容詞 hot や fresh と、安定的形容詞に分類される形容詞 raw, black の狀態の持続性の違いに注目し、while 節を用いて書き換えた際、容認性に違いがみられることを指摘する。

- (11) a. I ate the meat while it was fresh.
- b. He drank the coffee while it was hot. (加賀 1998: 431)
- (12) a. ?I ate the meat while it was raw.
- b. ??He drank the coffee while it was black. (加賀 1998: 431)

3節では、(11)のように、非安定的形容詞に分類される *fresh, hot* が *while* 節に生起する事例と、(12a)のように、安定的形容詞に分類される *raw* が *while* 節に生起できる事例を中心に詳細に検討する。

最後に、金澤 (2003) の描写述語に関する分析を概観する。金澤 (2003) は、動詞によって表される事象と、形容詞によって表される事象の融合 (*conflation*) によって共有される時間関係に基づき、描写述語、結果述語それぞれにみられる叙述関係の統一的説明を試みている。

(13) の形容詞 *raw* は、いずれも描写述語を形成しているようにみえるが、指示対象を叙述する時点に違いがみられる。

- (13) a. John ate the potatoes raw.
b. Jones fried the potatoes raw. (金澤 2003: 73)

形容詞 *raw* は、(13a) では動詞 *eat* と共起し、食べ始めから食べ終わりまでのジャガイモの状態を表すのに対し、(13b) では動詞 *fry* と共起するので、揚げ始めの時点でのジャガイモの状態を表している。金澤 (2003) は、(13b) の構文を擬似描写構文 (*fake depictive constructions*) と呼び、(13a) の「通常の描写構文」とは区別されるべき事例と説明している。

以上、描写述語の先行研究を概観してきた。描写述語の意味的特徴を適切に捉えるためには、動詞、形容詞の語彙的意味にのみ注目する分析では不十分であり、坪本 (1990) や加賀 (1998)、金澤 (2003) のように、動詞によって表される事象と、描写述語によって表される事象との時間関係を考慮に入れた分析の必要性が明らかとなる。

3. 3つの描写述語にみられる意味的特徴

本節では、目的語指向の描写述語を、形容詞 *hot, warm, fresh, raw* が生起する例を中心に、3つの事例に分けて意味的特徴を観察する。はじめに、V NP A から構成される「通常の描写述語」を観察する。その後、*while* を伴う V NP *while* A の事例を観察し、最後に、V *while* A から構成され、*while* A の叙述対象である NP が、先行文脈に現れる事例を観察する。

3.1. VNPAの事例にみられる意味的特徴

「通常の描写述語」は、動作が行われる際の指示対象の状態を表し、他の状態との対比により、当該の状態が特徴づけられやすい⁵。はじめに、非安定的形容詞 *hot* と *warm* が生起する事例からみてみよう。(14) は、動詞 *serve* と共起する事例である。

- (14) a. *Serve the vegetables hot or at room temperature.*
(COCA, 2012, NEWS)
- b. *Serve potatoes hot or warm with tarragon aioli.*
(COCA, 1999, MAG)⁶

これらの形容詞が描写述語を形成する際、他の温度を表す表現と対比されることで、給仕される動作における、指示対象の「熱い状態」もしくは「温かい状態」が表される傾向が強い。(14a) は、野菜料理を出すときの温度に関して、野菜の「熱い状態」が、通常の室温 (*at room temperature*) と対比されている。また、(14b) では、アイオリソースがかかったジャガイモを出す温度が、形容詞 *hot* と *warm* との対比により表されている。

他の温度との対比により、描写述語が用いられる事例は、(15) のように、動詞 *eat* と共起する描写述語にもみられる。

- (15) *This quiche can be eaten hot or tepid.* (COCA, 2003, NEWS)

キッシュが食べられる時の温度が、形容詞 *hot* と *tepid* を等位接続させることで対比されている。

次に、非安定的形容詞 *fresh* の事例をみてみよう。この形容詞は、(16) に挙げるように、動詞 *cook* や *butcher*, *grind* と共起できる。どちらの動作も、指示対象の形状等は変化するが、*fresh* によって「新鮮な状態」が表されている⁷。

- (16) a. *... cook corn (fresh) and let cool and mix it with cut up ham...*
(COCA, 2012, WEB)
- b. *Farr then butchers and grinds the meat fresh before each market day.*
(COCA, 2010, MAG)

形容詞 *fresh* は、(16a) では調理時のトウモロコシが、(16b) では食肉処理をし、挽肉にする時の肉が、それぞれ新鮮な状態であることを表している。

最後に、安定的形容詞 *raw* の事例をみる。この形容詞は、(17a) の動詞 *eat* や、(17b) の動詞 *give* の動作時における、指示対象の状態を表している。

- (17) a. The kids paw through the offerings and look as if they might eat the potatoes raw. (COCA, 2002, MAG)
- b. Moana and his other new friends strip the fish with their teeth and give him the meat raw. (COCA, 1995, FIC)

また、(18) のように、動詞 *cook* は、*eat* や *use* などの動詞と等位接続されることで、形容詞 *raw* と共起し、「調理される状況」と、それ以外の動作時における、指示対象の「生の状態」が対比される例がみられる。

- (18) a. I peel it (=the jicama: SK). You can cook it or eat it raw. It has a very nice flavor... (COCA, 1991, SPOK)
- b. And recently I've discovered fennel – I cook it or use it raw in salads. (COCA, 1997, MAG)

(18a) では、クズイモ (*jicama*) の調理に関する文脈の中で、動詞 *cook* によって表される「調理する」時のクズイモの状態と、生で食べる (*eat it raw*) 時のクズイモの状態が対比されている。また、(18b) も、サラダの具材であるウイキョウ (*fennel*) を「調理する」時の状態と、生で使う (*use it raw*) 時の状態が対比されている。

ここまで、非安定的形容詞と安定的形容詞が、描写述語として機能する事例を観察してきた。その結果、非安定的形容詞に分類される *hot*, *warm* は、いずれも動詞 *serve*, *eat* などと共起しやすいのに対して、安定的形容詞 *raw* は、動詞 *eat* や *give*, *cook* などと共起する傾向が強くみられる。さらに、いずれの事例にも、描写述語によって表される状態と対比される状態が、形容詞もしくは共起する動詞句のいずれかで明示される傾向が強くみられることを明らかにした。

3.2. V NP while A の事例にみられる意味的特徴

V NP while A から構成される事例は、while A によって、動作の過程における指示対象の一時的状態が表され、while の語彙的性質上、その状態の持続性が強調される。(19) は、while 節に非安定的形容詞 hot が生じし、動詞 serve, hang と共起する例である。

- (19) a. Sprinkle garlic chips over the broth if desired and cilantro over the noodles. Serve them together while hot, dipping the noodles into the broth. (=2a)
- b. Dress shirts are always hung on hangers while hot from the dryer.
(COCA, 2012, BLOG)

(19a) の while hot は、them の指示物（スープと麺）が出される際の持続的な「熱い状態」を強調している。また、(19b) では、while hot によって、乾燥機から取り出され、ハンガーにかけられたシャツが、持続的に「熱い状態」であることが表されている。

また、while hot は、(20) のように、瞬間的な動作を表す動詞 cut や flatten と共起し、指示対象の熱い状態の持続性が強調される例もみられる。

- (20) a. If the pie is cut while hot, you break the bottom crust and it will soak up the hot fruit juices and get soggy. (COCA, 2012, WEB)
- b. Later Littleton flattened the forms while hot and encouraged them to bend and twist in the heat of the furnace... (COCA, 1999, MAG)

目的語指示物の意味的特性や文脈から、これらの動作が一定の期間行われ、while hot は、その動作の間、指示対象が持続的に「熱い状態」であることが表されている⁸。たとえば、(20a) では、主節の部分に、一定の時間をかけてパイが熱い状態で切られることでもたされる様子が表されている。また、(20b) においても、forms が複数形で表されていることから、一定の時間、泡をなくす動作が行われていることが分かる。

さらに、while hot は、(21) のように、動詞 toss (混ぜる) や dress (下ごしらえする) などと共起し、調理の動作時、食材の持続的な「熱い状態」が

強調されている。

- (21) a. With 2 forks, toss popcorn mixture while hot until evenly coated with caramel. (COCA, 2003, MAG)
b. ... dressing the spuds while hot and then serving them immediately is ideal, because hot potatoes absorb the flavors of the herbs and oil. (COCA, 2004, NEWS)

(21a)における while hot は、ポップコーンの混合物が熱いうちに、キャラメルを使って均等に混ぜ合わされる状況を表している。また、(21b)も、ジャガイモを下ごしらえし、盛り付けまでの間、ジャガイモの熱い状態が続いている様子が表されている。

次に、非安定的形容詞 fresh が生起する事例をみてみよう。while fresh が、動詞 enjoy や consume と共起することで、消費する時の食品の持続的な「新鮮な状態」が強調されている。具体例として (22) が挙げられる。

- (22) a. Clip the thick, woody stem with snips, and enjoy the fruit while fresh. (NOW, 2020)
b. ... it is time for individuals to consume food while fresh or if needed, refrigerate it properly, he added. (NOW, 2019)

(22a) は、食べる間のナスの新鮮な状態の持続が、また、(22b) では、食べ物を消費する際の新鮮な状態の持続が、それぞれ強調されている。

最後に、安定的形容詞に分類される形容詞 raw が、(23) のように動詞 sell と共起する例をみてみよう。

- (23) ... when we were selling our potatoes while raw, we used to sell at between 350 to 400 shillings, ... (NOW, 2016)

この例において、while raw は、ジャガイモが、生の状態で販売される状況が表され、その状況がジャガイモの安値での販売へとつながると解釈される。3.2 節でみたように、(18) の「通常の描写述語」において、形容詞 raw

は、動詞 cook と共起することで、状態変化を表す指示対象と叙述関係を構築できる。一方、(23)における while raw は、動詞 sell と共起し、「売る」動作の過程における、ジャガイモの「生の状態」の持続が表されている。

ここまで、V NP while A の事例の意味的特徴をみてきた。形容詞に while を伴うことで状態の持続性が強調され、その状態と同時発生的な動作は、瞬間的な動作を表す動詞 (cut, flatten など) や、調理動作を表す動詞 (toss, dress など)、食べ物を消費する動詞 (enjoy, consume など) によって、一定期間行われる解釈が必要とされることを明らかにした。

3.3. V while A の事例にみられる意味的特徴

最後に、V while A の事例を観察する。この事例は、V NP while A と同様、動作の過程における、指示対象の状態の持続性が強調される。ただし、while A と叙述関係を構築する名詞句は、先行文脈で明示される点で V NP while A とは異なる⁹。(24) は V while A の具体例を示している。

- (24) a. ... finish by sprinkling the fresh thyme leaves over top, and serve while hot. (= (2b))
b. Serve hot in bowls. Or for molded polenta, pour while hot into the prepared baking dish and chill in the refrigerator to set, about 1 hour. (COCA, 2008, MAG)

この事例においても while hot は、動詞 serve と共起できる。(24a) は鍋料理の一種である、グリーン・ビーン・キャセロールのレシピからの例である。これまでの2つの事例 (V NP A, V NP while A) とは異なり、鍋料理が一連の調理動作によって仕上げられ、while hot により、最終段階において、熱い状態が持続しているうちに出される状況が表されている。(24b) もまた、ポレンタ (コーンミールをお粥状に煮た料理) のレシピからの例であり、while hot は polenta を叙述対象とし、serve while hot と pour while hot によって、ポレンタをボウル、グラタン皿にそれぞれ入れる時の熱い状態の持続が表されている。

また、while hot と while warm は、(25) のように、sip や drink など「飲む」動作を表す動詞とも共起し、一連の動作の最終段階で、「飲む」動作時にお

ける，指示対象の「熱い状態」，「温かい状態」の持続性が強調されている。

- (25) a. ... add lemon and honey. Sip while hot. (COCA, 2000, MAG)
b. Let it come to a boil and then cook on a low heat for a few minutes.
Drink while warm. It will ease your cold symptoms!
(COCA, 2012, WEB)

(25a) では，先行文脈より，while hot の叙述対象は rosemary tea であり，お茶をいれる準備を経て，「すする」動作において，お茶の持続的な熱い状態が強調されている。また，(25b) においても，while warm は，生姜とコーラを煮詰めた飲み物を作る過程を経て，「すする」動作時における，飲み物の温かい状態の持続が強調されている。

次に while warm が cut と共起する例をみてみよう。

- (26) a. To serve, cut into slices with serrated knife while warm. (COCA, 2005, MAG)
b. Cut into bars while warm. (COCA, 2002, NEWS)

いずれの例においても，瞬間的な動作を表す cut が生起しているが，(26a) では slices によって，(26b) では bars によって，「切る」動作が一定の時間行われていることは明らかである。その過程において，指示対象の温かい状態の持続が表されている。

また，(27) をみてみよう。

- (27) a. Bake until lightly browned and firm to the touch, about 20 minutes.
Brush while hot with the remaining seasoned oil. (COCA, 2002, NEWS)
b. Bake for 10 to 12 minutes, until lightly browned. Remove from pan while hot. (COCA, 2015, NEWS)

V while A において，通常，描写述語と結びつきにくい動詞が，他の動詞と列挙されることで，指示対象の持続的な状態の解釈を得やすくしている

と思われる。(27a)では、bake (ピザ生地を焼く)に、brush (はけを使ってピザ生地に油を塗る)が後続することで、while hotによって、油を塗る間、ピザの熱い状態の持続が表されている。また、(27b)では、bake (お菓子を焼く)の後に、動詞removeが生起することで、while hotは、お菓子の熱い状態が続いている中、平鍋から取り除かれる状況を表している。同様の説明は、pull while warmにも当てはまる¹⁰。

さらに、(28)のように、while hotがV and Vの形式の動詞と共起し、(主に調理を表す)動作の最終段階における、指示対象の状態の持続性が強調される例もある。

- (28) a. If cooked too slowly, toast will be greasy. Drain and sprinkle while hot with confectioner's sugar and cinnamon mixed together.
(COCA, 2012, WEB)
- b. ... roast the breadfruit whole, peel and core while hot, ...
(COCA, 1993, MAG)

(28a)のwhile hotは、drain and sprinkleによって表される、砂糖とシナモンの混合物をトーストに流し、まぶす動作の間、トーストの熱い状態の持続が強調されている。また、(28b)においても、while hotがpeel and coreと共起することで、パンノキ (breadfruit) を煎る動作の後で、むいて芯を抜く動作の間、パンノキが持続的に熱い状態であることが表されている。

ここまで、V while Aの事例は、Aと叙述関係を結ぶ名詞句が先行して文脈に現れ、一連の動作が動詞によって表されていること、また、while Aと共起する動詞の分布が多岐にわたることを観察した。その結果、while Aは、前述の2つの事例に生起していた動詞serve, drink, sipに加えて、通常、描写述語とは結びつきにくいと思われる調理動作を表す動詞 (brushやremoveなど) や、等位接続される動詞句 (drain and sprinkle, peel and coreなど) と共起できることを明らかにした。

4. なぜ、多様な描写述語がみられるのか

次に多様な描写述語の事例がみられる理由を検討する。本論は、各事例

における動詞と描写述語との間には、意味的自律性に違いがあり、その違いが描写述語の分布に反映された結果、V NP Aの文法形式だけでなく、V NP while A, V while Aを用いて、動作時における指示対象の一時的状態の持続性が表されていると仮定する。

この着想の手がかりとなるのが、Washio (1997) による結果述語の分析である。Washio (1997) によると、結果述語を構成する動詞と形容詞の意味的自律性には違いがあり、その違いによって、結果構文は3つに下位分類される。

第1は、弱い結果述語 (weak resultatives) であり、動詞の語彙的意味に結果状態が含意される。これに分類される結果述語は、動詞と形容詞の語彙的意味が相互に依存している点で、意味的自律性が「低い」とみなされる。(29) がその具体例である。

- (29) a. Mary dyed the dress pink.
b. I froze the ice cream hard/solid. (Washio 1997: 10)

(29a) の動詞 dye は「あるものを別な色に染める」と定義され、形容詞 pink はその色を具現化し、「ドレスをピンク色に染める」と解釈される。(29b) の動詞 freeze についても、語彙的意味に「凍っている」という結果状態が含意されており、形容詞 hard, solid は、アイスの凍っている状態を「かたい」と具現化している。

第2の結果述語は、強い結果述語 (strong resultatives) であり、動詞の語彙的意味に結果状態が含意されておらず、合成的 (compositional) に結果構文が形成される。この点で、動詞の語彙的意味と、形容詞の語彙的意味の自律性が高いとみなされる。「強い結果述語」の具体例として、(30) が挙げられる。

- (30) a. The horses dragged the logs smooth.
b. The jockeys raced the horses sweaty. (Washio 1997: 7)

(30a) に生起する動詞 drag には、形容詞 smooth (滑らかな状態) が含意されておらず、これらの意味を合成することで結果構文が形成される。また、

(30b)における動詞 *race* (レースに参加させる) の語彙の意味にも、形容詞 *sweaty* (汗をかいている) は含意されていない。そのため、結果構文は合成的に形成され、「レースに参加させた結果、馬が汗をかいた」と解釈される。

第3の結果述語は、擬似結果述語 (*spurious resultatives*) である。先述の2つの結果述語とは異なり、形容詞が動作の様態を表し、*-ly* を伴う副詞に書き換えられる。(31)では、形容詞 *tight*, *loose* は、「彼」が靴紐を結ぶ際の様態を表し、それぞれ *tightly*, *loosely* とほぼ同義に解釈される。

- (31) a. He tied his shoelaces tight.
b. He tied his shoelaces loose. (Washio 1997: 16)

4.1. 3つの各事例にみられる形成過程について

V NP A, V NP while A, V while A いずれの事例も、形容詞が、動作が行われる際の指示対象の状態を表しており、*while* を伴うと動作の過程における指示対象の状態の持続性が強調される。

では、なぜ、事例間でこうした解釈の違いがみられるのか。本論は、結果述語と同様、これらの描写述語の各事例において、動詞と形容詞との間に意味的自律性に違いがあり、その違いがこれら3つの事例の形成に反映されると説明する。

この分析を支持し、描写述語における動詞、形容詞の意味的自律性の強弱を示唆する記述が、Quirk et al. (1985) にみられる。(32)に挙げる各形容詞は、いずれも、動詞によって表される動作が行われる際の指示対象の一時的状態を表している。

- (32) a. buy N cheap¹
b. return (a letter) unopened¹
c. serve (food) hot/cold¹
d. sell N cheap/new¹ (Quirk et al. 1985: 1198)

その中で、Quirk et al. (1985) は、上付き数字1がついている形容詞 (*cheap*, *unopened*, *cold*, *new*) は、共起している動詞の意味を変えずに、省略

されやすいと説明している。これは、形容詞によって表される状態が、動詞の語彙的意味に含意されている、もしくは喚起しやすいことを強く示唆しており、動詞と描写述語の意味的關係が一律に同一でないことを示している。

ここで、本論の3つの描写述語の事例の議論に戻る。V NPAから構成される「通常の描写述語」は、(33)の *serve-hot, eat-raw* の組み合わせに代表されるように、動詞と形容詞の語彙的意味の結びつきが強い。すなわち、動詞と形容詞の語彙的意味の自律性が低い、「弱い描写述語」を形成している。

- (33) a. *Serve the vegetables hot or at room temperature.* (= (14a))
b. *I peel it. You can cook it or eat it raw. It has a very nice flavor...*
(= (18a))

(33a)における動詞 *serve* は、‘to give someone food or drink, especially as part of a meal or in a restaurant, bar etc’ (*LDOCE*⁶) と定義され、食べ物（もしくは飲み物）の温度を *hot* が具現化していると考えられる¹¹。また、(33b)における動詞 *eat* は、‘to put food in your mouth and chew and swallow it’ (*LDOCE*⁶) と定義され、動詞に含意される *food* の状態が、形容詞 *raw* によって表されている。

次に、第2の事例である V NP while A をみてみよう。「通常の描写述語」とは異なり、while A が生起することで、動作時における指示対象の状態の持続性が強調される。そのため、動詞 *serve* などが生起する「弱い描写述語」だけでなく、(34)のように、動詞と描写述語との意味的自律性が高い、「強い描写述語」が形成されることが考えられる。

- (34) a. *Later Littleton flattened the forms while hot and encouraged them to bend and twist in the heat of the furnace...* (= (20b))
b. *... it is time for individuals to consume food while fresh or if needed, refrigerate it properly, he added.* (= (22b))
c. *... when we were selling our potatoes while raw, we used to sell at between 350 to 400 shillings, ...* (= (23))

(34) に挙げる動詞 *flatten* や *consume*, *sell* の語彙の意味には, *while* A に生起する形容詞 *hot* や *fresh*, *raw* の語彙の意味が含意されておらず, 合成的に形成されている。

これらの動詞と形容詞の組み合わせは, 動詞の語彙の意味と, 形容詞の語彙の意味を単純に合成するというよりは, むしろ, *while* の語彙の意味に内包される, 状態の持続性を具現化できるよう, Pustejovsky (1995) の「強制」(*coercion*) が作用することで, V NP *while* A の事例が形成されていると推測される。

Pustejovsky (1995) によると, 「強制」とは, 動詞 *enjoy* や *begin* などの目的語位置に指示対象を表す名詞句をとり, 目的語名詞と密接にかかわる動作を補い解釈することを指す。たとえば, (35a) は, *the movies* と密接に関わる動作である *watch* を補い, (35b) と同義として「メアリーは映画鑑賞を楽しんだ」と解釈される。

- (35) a. *Mary enjoyed the movie.*
b. *Mary enjoyed watching the movie.* (Pustejovsky 1995: 115)

(36a) についても, *begin* の目的語位置に *a book* が生起すると, (36b) と (36c) のように *book* と密接に関わる動作である *read* が補われることで, 「ジョンが本を読み始めた」と解釈される。

- (36) a. *John began a book.*
b. *John began reading a book.*
c. *John began to read a book.* (Pustejovsky 1995: 115)

実際のところ, V NP *while* A にも, (37) のように *enjoy* と *while fresh* が共起できる例がある。

- (37) *Clip the thick, woody stem with snips, and enjoy the fruit while fresh.*
(= (22a))

この例では, 名詞句 *the fruit* と結びつきの強い動作である *eat* を補うことで,

while freshが解釈される。

こうして、while Aによって、「通常の描写述語」の事例に生起する、動詞と形容詞の組み合わせだけでなく、新たな動詞と形容詞の組み合わせを用いることで、動作時の指示対象の状態の持続性が強調されるようになる。この事例では、瞬間的な動作を表す動詞cutやflatterなどが、動詞の目的語の意味的特性もしくは文脈から、while Aと共に起することで、その動作が一定の期間行われ、その過程における指示対象の持続的状态を強調できる。さらに、動詞tossやdressなどは、「調理する」動作の過程部分を、sellなどについてもwhile Aと共に起することで、「売る」動作の過程における、指示対象の持続的な状態を強調できる。

第3の事例である、V while Aもまた、V while NP Aと同様、動詞と形容詞との間の意味的自律性の高い、「強い描写述語」を形成している。3.3節でみたように、while Aの叙述対象の名詞句は、先行文脈で明示され、一連の動作が表された上で、while Aは、その最終段階における、動作時の指示対象の持続的な状態を強調する。

この事例は、次の過程を経て叙述関係が構築されていると推測される。はじめに、先行文脈にwhile Aの叙述対象である名詞句が提示される。後続する文に一連の動作を列挙することで、当該名詞句によって表される指示対象が関与する過程が描写される。これにより、既出の名詞句の情報が保持されているので、動詞句内に叙述対象が明示されることなく、V while Aの形式を用いて、while Aは、指示対象の状態の持続性を強調する。

この修飾関係は、談話内でLangacker (1991) の言うランドマーク (Landmark) とトラジェクター (Trajector) の関係を構築していると捉え直すことができよう。知覚者は、事物を知覚する際、際立ちが置かれる目立つ部分 (「図」) と、目立たない部分 (「地」) に分けて捉えており、この「図」と「地」の分化は、人間が備えている認知能力である。また、ランドマークは、目立つ部分の要素を指すのに対して、トラジェクターは目立たない要素として、言語化に反映される。

V while Aの事例にこれらの概念を適用してみよう。先行文脈で、叙述対象の名詞句が提示されることで、話し手と聞き手との間で、その指示対象に関する情報が共有され、これがランドマークとして機能する。それを手がかりに、談話内に様々な動作が列挙され、動作の過程が描写されること

で、その対象が動作に関与していることが認識される。最終的に、話し手と聞き手双方の話題の中心として、最終段階における指示対象の持続的な状態が描写され、これがトラジェクターとして機能すると考えられる。

その結果、(38)に挙げるように、動詞 *brush* や *remove* が、*bake* など他の動詞を列挙することで、*while A* と共起できるようになり、描写述語を形成する。

- (38) a. Bake until lightly browned and firm to the touch, about 20 minutes.
Brush while hot with the remaining seasoned oil. (= (27a))
b. Bake for 10 to 12 minutes, until lightly browned. Remove from pan while hot. (= (27b))

また、(39)のように *V and V* の形で動詞を具現化することで、*while A* と共起し、描写述語を形成する例もみられるようになる。

- (39) a. If cooked too slowly, toast will be greasy. Drain and sprinkle while hot with confectioner's sugar and cinnamon mixed together. (= (28a))
b. ... roast the breadfruit whole, peel and core while hot, ... (= (28b))

4.2. 3つの描写述語の事例間の意味的關係について

次に3つの描写述語の事例間の意味的關係について考察する。本論では、*V NP A* から構成される「通常の描写述語」の事例を基本形として考え、*V NP while A* と *V while A* は、その周辺的事例であることを示していく。

V NP A の事例は、動作時における指示対象の状態を表している。それが、*while* を伴うことで、*V NP while A* の事例では、動作の過程における指示対象の状態の持続性が、さらに、*V while A* の事例では、一連の動作を経た後、最終段階における動作時の指示対象の状態の持続性が、それぞれ強調される。

これら3つの描写述語の叙述關係にみられる時間的違いは、(40)に挙げる、動詞 *serve* と形容詞 *hot* が共起する例によって確認できる。

- (40) a. Serve the vegetables hot or at room temperature. (= (14a))
 b. Dress shirts are always hung on hangers while hot from the dryer.
 (= (19b))
 c. ... finish by sprinkling the fresh thyme leaves over top, and serve while hot. (= (2b))

同一の動詞、形容詞の組み合わせであっても、描写述語がどの時点の状態を叙述するか、その時間的關係に違いがみられる。(40a)の「通常の描写述語」では、野菜が、熱い状態(もしくは常温)で盛られる状況が表されている。また、(40b)のV NP while Aの事例では、シャツが乾燥機から取り出されてからハンガーにかけられるまでの過程において、シャツの熱い状態の持続が強調されている。さらに、(40c)のV while Aの事例では、一連の調理工程を経て作られた鍋料理が、最終段階において出される際、熱い状態の持続が強調されている。

「通常の描写述語」を基本として、whileを伴う2つの事例が新たに創出された周辺の事例であると考え、各事例に生起する形容詞、動詞の分布の違いを適切に説明できる。形容詞の分布に関して、V NP while A、V while Aの事例はいずれも、典型的事例であるV NPAと比べると、生起できる形容詞が限定されている。

V NPAの事例とV NP while Aの事例には、いずれも、非安定的形容詞と安定的形容詞が生起できる。ただし、V NP while Aの事例に、安定的形容詞rawが生起する際には、共起できる動詞がsellに限定されている。一方、V NPAの事例では、形容詞rawと共起できる動詞は、eat, giveのほか cookなどがみられる。また、V while Aの事例に生起できる形容詞は、hotやwarmなど非安定的形容詞に限定されている。

次に、描写述語と共起する動詞の分布に関してみていこう。V NP Aの事例と比べてみると、V NP while AとV while Aの事例には、新たな動詞が生起できるようになる。これは次の2つの理由に起因するものと思われる。第1に、4.1節でみたように、V NP while A、V while Aの事例は、いずれも「強い描写述語」を形成している。この描写述語の形成には、事例内の情報を増幅させる必要があるためである。第2に、while Aによって動作時の指示対象の持続的状态が表されるよう、動作の過程を明示する必要がある。

あるためである。

とりわけ、V while Aの事例では、叙述対象が動詞句内に明示されていないので、描写述語を形成するためには、V NP while Aの事例に比べて、より多くの情報が必要とされる。それが、さまざまな動詞を列挙することで、または、V and Vの文法形式を用いることで、動作の過程を描写することで実現されている。

以上、V NP while A, V while Aは、V NP Aの事例にみられる、描写述語の基本的意味（動作時における指示対象の一時的状態を表す）を継承しながら、新たな意味を表す周辺的事例であることをみてきた。また、V NP while Aの事例とV while Aの事例に生起する形容詞の分布と、動詞の分布に違いがみられることから、これら2つの事例は、それぞれ独立した事例と捉えられることを示した。

5. おわりに

本論では、while Aから構成される句を含む事例を、その意味的特徴から、描写述語の周辺的事例と位置づけ、「通常の描写述語」が生起する事例の意味的特徴を比較することで、V NP while Aの事例と、V while Aの事例の意味的特徴およびその形成過程を考察した。

その結果、「通常の描写述語」が、動作が行われる際の指示対象の一時的状態を表していたものが、形容詞にwhileが伴うことで、動作の過程における、指示対象の状態の持続性が強調されることを明らかにした。具体的には、V NP while Aの事例では、while Aによって、動作が終わるまでの指示対象の状態の持続性が強調されることを明らかにした。また、V while Aの事例では、一連の動作が列挙され、最終段階における動作の過程において、指示対象の状態の持続性が強調されることをみてきた。さらに、これら3つの事例には、各事例の動詞、形容詞の語彙的意味の自律性に違いがあり、その違いが、各描写述語における形容詞の分布の違いや、共起する動詞の分布の違いに反映されることを明らかにした。

むすびに、今後の課題について述べる。今回分析してきたwhileを伴う描写述語が使われる使用域に関して、主にレシピで用いられる用例をみてきたが、レシピ以外にどのような場面で使われているのかさらに精査する

必要がある。また、通時的観点から、while Aの形式が使われ始めた時期についても、量的検証とともにさらに考察を進めていく必要がある。

注

1. Rapoport (1993) は、この議論を支持する根拠として、描写述語と共起できる動詞の分布と、中間構文を構成する動詞の分布が一致することを挙げ、(4)の描写述語と共起する動詞 *sell* と *photograph* は、(i) のように中間構文を形成できることを示している。
 - (i) a. Detective novels sell quickly.
 - b. Nadav photographed well. (Rapoport 1993: 179)
2. さらに、Rapoport (1999) は、Rapoport (1993) の分析のもう1つの問題点として、主語指向の描写述語と、目的語指向の描写述語を統一的に説明できないことを指摘している。
3. 坪本 (1990) における「過程的状态」と「安定状態」の分類は、この後に説明する加賀 (1998) における、「非安定的形容詞」と「安定的形容詞」の分類にそれぞれ対応している。本論では、説明の便宜上、(8) において「非安定的形容詞」と「安定的形容詞」を併記することとする。
4. 加賀 (1998) が挙げている「主体」とは、本論における「指示対象」に相当する内容と考える。また、加賀 (1998) は、動詞 *eat* の分類は、食べ物が口に入るまでの移動を位置変化とみなしていることによるものである。加賀 (1998) は、動詞 *eat* と同様、動詞 *drink* も位置変化を表す動詞として挙げている。
5. 久野・高見 (2018: 23) も同趣旨の記述をしており、目的語描写述語構文の意味的制約として、「目的語描写述語構文は、目的語描写述語が、主語によって選択可能で、比較される選択肢を想起する場合に適格となる」と提案している。
6. COCA で検索してみると、*hot or warm* は動詞 *serve* と共起する例が多くみられる。しかし、*warm or hot* の語順では、他の動詞と共起する例はみられないのに対し、*serve* と共起する例はみられなかった。
7. 金澤 (2003) の分析に従うと、(16) の例は「擬似描写構文」の事例として分類され、「通常の描写述語」と区別する必要がある。しかしながら、本論の議論の中心は、*while NP A* と *while A* の事例にあるため、今回は、(16) も「通常の描写述語」の事例として扱い、分析を進めていくこととする。
8. 匿名の査読者より、瞬間的な動詞が、一定期間行われる動作を表す解釈を許容できるのは、*V while NP A* という構文によるものというよりは、むしろ、動詞の目的語や文脈から認可されるのではないかという助言を頂いた。本論では、この助言に沿って議論を進める。

9. 匿名の査読者より、事例 V while A は、状態の持続を表している点では事例 V NP while A と同じであるので、V while A と V NP while A との区別は不要ではないかという助言を頂いた。本論では、4.2 節で示すように、各事例に生起する形容詞および動詞の分布に違いがみられることから、両者を区別して議論を進める。なお、両者が同一の事例であるか否かに関する詳細な議論は、今後の課題としたい。
10. pull while warm の具体例として (i) が挙げられる。
 - (i) Cook pork, pull while warm, drizzle 2 tablespoons of sauce, wrap well and refrigerate. (COCA, 2012, MAG)
11. *LDOCE*⁶ には、動詞 serve の熟語として ‘serve something hot/cold etc’ が挙げられていることから、この動詞と形容詞 hot との結びつきの強さがうかがえる。

参考文献

- Ferris, Conor (1993) *The Meaning of Syntax: A Study of the Adjectives of English*. London: Longman.
- Jackendoff, Ray (1990) *Semantic Structure*. Cambridge: MIT Press.
- 加賀信広 (1998) 「目的語にかかる描写の二次述語」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究 研究報告書I平成9年度』427-432.
- 金澤俊吾 (2003) 「NP-V-NP-AP 構文の意味的性質について」『英語語法文法研究』10: 70-86.
- 久野暉, 高見健一 (2018) 『謎解きの英文法 形容詞』東京: くろしお出版.
- Langacker, Ronald W. (1991) *Foundations of Cognitive Grammar Volume II*. Stanford: Stanford University.
- Maruta, Tadao (1995) “The Semantics of Depictives.” *English Linguistics* 12: 125-146.
- Pustejovsky, James (1995) *The Generative Lexicon*. Cambridge: MIT Press.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Rapoport, Tova R. (1993) “Verbs in Depictives and Resultatives.” In James Pustejovsky (ed.), *Semantics and the Lexicon*, 163-184. Dordrecht: Kluwer.
- Rapoport, Tova R. (1999) “Structure, Aspect, and the Predicate.” *Language* 75: 653-678.
- 坪本篤朗 (1990) 「when 節の中の形容詞 —— 過程的状态と安定状態」『英語青年』136 (6): 21.
- Washio, Ryuichi (1997) “Resultatives, Compositionality and Language Variation.” *Journal of East Asian Linguistics* 6: 1-49.

Williams, Edwin (1989) “Predication.” *Linguistic Inquiry* 11: 203-238.

辞書

LDOCE6: Longman Dictionary of Contemporary English (2014) Sixth Edition.
Harlow: Pearson Education.

コーパス

COCA: Davies, Mark. (2008-) *The Corpus of Contemporary American English*
(*COCA*). Available online at <https://www.english-corpora.org/coca/>.

NOW: Davies, Mark. (2016-) *Corpus of News on the Web* (*NOW*). Available online
at <https://www.english-corpora.org/now/>.

(高知県立大学)

kanazawa@cc.u-kochi.ac.jp